ハルナグループ
HARUNA GROUP

ハルナプロデュース本社／ハルナプラント

ディストリビューション

東京本社

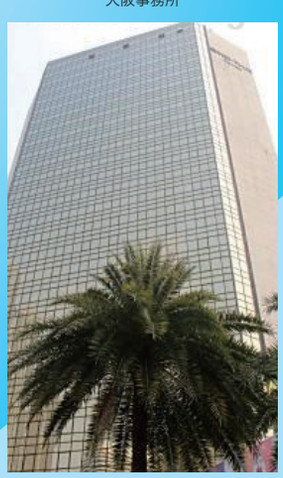
タニガワプラント

和歌山プラント

大阪事務所

高崎ディストリビューションセンター

高崎本社／創業記念館


HARUNA ASIA（Thai office）

榛名美術記念公園「美術の館」

HARUNA GROUP

ハルナビバレッジ

ホールディングカンパニー

ハルナプロデュース

商品企画開発・営業・
ハルナブランド・貿易
購買・生産・SCM・物流・
情報・研究開発

HARUNA

ブランドマネジメント・
海外戦略

HARUNA Asia (Thailand)

アジアマーケット

ハルナグループは独創性ある
飲料プロデューサーへ

1996-2021

ハルナグループ沿革

1996 年創業時のメンバー

1996 年

2 月　2 月 23 日に資本金 30 百万円で
　　ハルナビバレッジ株式会社を設立
2 月　第一工場稼働
5 月　第 1 回株式上場準備委員会開催
8 月　金融機関に対し月次決算の開示
11 月　東京にマーケティンク本部設置

1997 年

3 月　従業員持株会発足
5 月　ハルナビバレッジ研究所設立
6 月　第二工場稼働
10 月　新日本監査法人による調査及び指導開始

2000 年

2 月　第三工場稼働
5 月　総合衛生管理製造過程（HACCP）
　　取得に向けた合同委員会発足

2001 年

5 月　新日本監査法人による第六期決算調査及び指導
8 月　第三工場が JAS 工場として認定

2002 年

2 月　リサイクルシステム協議会発足
3 月　第 5 回第三者割当増資及び役員社員に対し
　　ストックオプション付与
5 月　新日本監査法人による第七期決算調査及び指導
8 月　四半期報告会を開催

2003 年

3 月　HACCP 認証取得に向け取り組み
4 月　環境会計導入
4 月　企業競争力の強化を図るため市場開発部門を設置
4 月　提案型企業への変革を目指し商品開発部門を設置
4 月　HACCP の考えを充実させるため
　　「総合衛生管理委員会」発足
5 月　新日本監査法人による第八期決算調査及び指導
8 月　中小企業経営革新計画承認（中小企業経営革新支援法）
10 月　「デカテス」産学官共同プロジェクト
　　（高崎健康福祉大学・群馬県）
12 月　人材教育投資、生産合理化投資、
　　総合衛生管理（HACCP）対応投資
12 月　第二工場において、クリーンルームと充填設備増設

2004 年

3 月　国際食品飲料展 FOODEX JAPAN2004 出展
10 月　人事基本理念制定

2005 年

3 月　物流関連企業ハルナロジスティクス（株）を設立
3 月　ハルナロジスティクス（株）第三倉庫完成（740 坪）
4 月　「製造者育成ビジネススクール」を開講
　　（ハルナビバレッジ 研究所附属）
10 月　緑地公園ハルナコミュニティガーデンを整備

2006 年

1 月　ハルナロジスティクス（株）第四倉庫完成（860 坪）
　　全社 IT 化に着手
2 月　創業十周年記念会
4 月　ハルナエコロジー（株）、ハルナロジスティクス（株）
　　共に資本金 5 千万円に増資
9 月　全工場（第一から第三工場）において
　　HACCP 承認（厚生労働省発関厚第 0912001 号）
10 月　「地球市民ウィーク 2006　環境活動展」出展
　　（主催：高崎市）

2007 年

3 月　国際食品飲料展 FOODEX JAPAN2007 出展
4 月　ハルナエコロジー（株）附属
　　ウェルネスサイエンス研究所発足
4 月　ハルナエコロジー（株）EU 輸出用緑茶
　　「YOSHI-GO」発表
6 月　オーパイ（株）事業譲受契約締結
　　タニガワビバレッジ（株）準備開始
10 月　合弁会社ハルナヨーロッパ設立
12 月　ハルナグループ全体会議開催開始

2008 年

1 月　タニガワビバレッジ（株）始動
4 月　（株）ハルナビバレッジ研究所、（株）ハルナ品質
　　管理研究所へ商号変更
4 月　群馬県初のプロ野球チーム群馬ダイヤモンドペガサス
　　をパートナーシップスポンサーとして応援
6 月　CSR 報告書発行開始
6 月　ハルナロジスティクス（株）第五倉庫完成

2009 年

1 月　タニガワビバレッジ（株）天然ガス設備稼働
1 月　組織再編に伴いハルナ品質環境研究所をハルナ
　　ビバレッジファクトリー（株）へ商号変更
2 月　ハルナビバレッジ（株）の経理・財務・人事部門
　　ハルナインテリジェンスネットワーク（株）本社移転
2 月　ハルナロジスティクス（株）、ハルナビバレッジ（株）
　　へ吸収合併
4 月　ハルナグループ組織再編スタート

2010 年

1 月　新規事業戦略センター設置
3 月　新商品開発プロジェクトチーム発足
5 月　「ハルナビジョン 2015」公表
7 月　ハルナグループ企業行動憲章・企業行動規範制定

2011 年

2 月　創業 15 周年記念誌
　　「はじめなければはじまらない」発刊
3 月　ハルナエコロジー（株）より HARUNA（株）へ
　　社名変更
3 月　ハルナビバレッジファクトリー（株）が
　　タニガワビバレッジ（株）を吸収合併
6 月　エネルギー対策委員会発足

2012 年

1 月　ハルナビバレッジファクトリー（株）
　　タニガワ地区 G 倉庫完成
1 月　震災対策委員会発足
2 月　プラントシステムイノベーション
　　「視える化」にてコントロール室完成
2 月　ハルナグループ歴史資料館新設
4 月　ハルナビバレッジ（株）がワイエスロジスティクス（株）の
　　株式 100% 取得し、ハルナロジスティクス（株）に社名変更
8 月　ハルナ工場のエネルギー転換（A 重油から都市ガスへ転換）

2013 年

4 月　ハルナグループ、持株会社体制への移行に伴う
　　組織再編スタート
4 月　和歌山県のジョイパック（株）をグループ化し
　　ハルナジョイパックを設立
7 月　HARUNA Asia Co.,Ltd 設立
10 月　ハルナファクトリー（株）、自社ブローボトル成型機
　　導入、稼働開始

2014 年

6 月　ビジネススクール榛名山麓研修所開所
10 月　ハルナジョイパック（株）、自社ブローボトル成型機導入、
　　稼働開始
11 月　ハルナロジスティクス（株）、タニガワ地域自社
　　倉庫稼働開始

2015 年

2 月　HARUNA（株）国際食品飲料展 Foodex Japan2016 出展
7 月　国際的食品安全マネジメントシステムの「FSSC 22000」を取得

2016 年

1 月　創業者 青木清志が日刊工業新聞社主催の第 33 回優秀経営者顕彰「優秀創業者賞」を受賞
2 月　創業 20 周年記念彫刻「水滴」完成（彫刻家 高濱英俊氏・作）
4 月　ハルナジョイパック（株）　小型容器飲料の生産が本格稼働
4 月　上毛新聞「心の譜」（ハルナグループ創業者・青木清志）連載
6 月　「ハルナビジョン 2018」公表

2017 年

2 月　群馬県の地域活性化キャンペーン「ぐんま愛 ここに生きる」を支援
12 月　経済産業省選定「地域未来牽引企業」に選定

2018 年

4 月　ハルナグループ組織再編スタート
12 月　日本経済団体連合会入会

2019 年

1 月　和歌山プラント LNG サテライト設備の導入
1 月　タニガワプラント蒸気供給共同スキーム事業の運用開始
3 月　スペイン販売会社と資本提携販売を開始
3 月　SDGs 私募債（東和銀行引き受け）発行額の一部をぐんま緑の県民基金へ寄付
4 月　SDGs 行動宣言の発表
6 月　中期経営計画「ハルナビジョン 2026」公表

2020 年

2 月　危機管理対策室委員会発足し、感染症対策や災害対策等を強化
3 月　群馬テレビ局との共同制作オリジナルプロモーションビデオ発表
3 月　高崎ディストリビューションセンター完成
3 月　SDGs 私募債（群馬銀行引き受け）発行額の一部をぐんま緑の県民基金へ寄付
4 月　ハルナトータル・リワードを構築
4 月　一般財団法人 榛名美術設立

2021 年

2 月　創業 25 周年記念「Haruna Book」制作
3 月　ぐんま緑の県民基金へ寄付
4 月　FSSC22000（ハルナプラント）更新監査実施

2020 年グループ全体総会にて
（2021 年 5 月現在グループ総人員 457 名）

会社概要

Profile

Haruna Beverage Inc.

ハルナビバレッジ

当社グループにおける経営戦略・人事・財務経理・ビジネススクール

創　業	1996 年 2 月 23 日
資本金	4 億 5,390 万円（発行済株式数 9,543 株）
連結売上高	235 億円（2021 年 3 月末）
所在地	■東京本社：〒 103-0027 東京都中央区日本橋 3-8-4 日本橋さくら通りビル 2F TEL：03-3275-0191（代）　FAX：03-3275-0192 ■群馬本社：〒 370-3531 群馬県高崎市足門町 39-3 TEL：027-387-0101（代）　FAX：027-387-0102
役　員	Founder（創業者）　青木清志 代表取締役社長（CEO）　青木麻生 専務取締役（CSO）　栗原健一 取締役（COO）　中澤幹彦 取締役【非常勤】　小出信介 取締役【社外】　梅野匡俊 取締役【社外】　ピーター・トーマス 監査役【社外】　尾﨑聖治

経営理念

顧客志向を経営の核として
顧客評価に値する品質とは何かを問い
顧客思考を超える製造とは何かを考え
顧客歓喜の果実を己の収穫とする

ビジョン

社会に幅広く必要とされる飲料を創造し、「飲む感動」「美味しさ」「喜び」「新しさ」を通じて皆様に信頼される企業グループを目指すとともに、全てのステークホルダーの満足を追求し持続的な企業価値向上を図る

行動理念

顧客満足なくして会社の繁栄はない
会社の繁栄なくして社員の幸せはない
社員の幸せなくして顧客の満足はない

会社概要

Profile

Haruna Produce Inc.

ハルナプロデュース

マーケティング本部（営業開発・ブランディング・
ハルナウェルネスサイエンス研究所）
生産本部（製造・品質保証・社会環境・ディストリビューション・
コンプライアンス・業務管理）

創　業	2009 年 4 月 1 日	資本金	4 億円

所在地	■本社・生産本部： 〒 370-3531　群馬県高崎市足門町 39-1 TEL：027-372-6911（代）　FAX：027-372-6912 〈購買〉TEL：027-372-6913　FAX：027-372-5877 ■マーケティング本部： 〒 103-0027　東京都中央区日本橋 3-8-4　日本橋さくら通りビル 2F TEL：03-3275-0191　FAX：03-3275-0192 ■大阪事務所： 〒 532-0011　大阪市淀川区西中島 6-7-3　第 6 新大阪ビル 903 号 TEL：06-6195-1755（代）　FAX：06-6195-1775 ■ディストリビューション： 〒 370-3504　群馬県北群馬郡榛東村広馬場 3044-1 TEL：0279-25-8385（代）　FAX：0279-54-6115 〒 379-1307　群馬県利根郡みなかみ町政所 1011 TEL：0278-62-1115　FAX：0278-62-1718 ■商品開発： 〒 370-3531　群馬県高崎市足門町 39-3 TEL：027-384-4747　FAX：027-310-0070 ■ハルナプラント： 〒 370-3531　群馬県高崎市足門町 39-1 TEL：027-372-5875（代）　FAX：027-310-0717 ■タニガワプラント： 〒 379-1307　群馬県利根郡みなかみ町政所 1011 TEL：0278-62-1111（代）　FAX：0278-62-1144 〈購買〉TEL：0278-62-1112　FAX：0278-62-1144 ■和歌山プラント： 〒 640-0441　和歌山県海南市七山 711-1 TEL：073-486-0231（代）　FAX：073-486-0210 ■ウェルネスサイエンス研究所： 〒 370-3531　群馬県高崎市足門町 39-3 TEL：027-372-1230（代）　FAX：027-372-1255
役　員	代表取締役社長　中澤幹彦 常務取締役　古市直也 シニアマネージングエグゼクティブオフィサー　山崎敦也 営業開発 Unit 担当マネージングエグゼクティブオフィサー　松下護 ディストリビューション Unit 担当マネージングエグゼクティブオフィサー　三原修一 和歌山プラント統括担当マネージングエグゼクティブオフィサー　小川啓治 製造 Unit 担当オペレーティングオフィサー　小池賢司 第 1 営業 Sec 担当オペレーティングオフィサー　松井健一 第 3 営業 Sec 担当オペレーティングオフィサー　中久保亨 ハルナウェルネスサイエンス研究所担当オペレーティングオフィサー　邑上豊隆 品質保証 Unit 担当オペレーティングオフィサー　清水秀憲 社会環境 Unit 担当オペレーティングオフィサー　淺野間博文

HGチャレンジ！ 一人一人の努力の積み重ねが未来を拓く

ハルナプロデュース株式会社
代表取締役社長
ハルナビバレッジ株式会社
取締役
（グループ経営執行責任者 COO）
中澤幹彦

当社は 2021 年 2 月 23 日、創業 25 周年を迎えました。これもひとえにご支援とご協力いただきましたステークホルダーの皆様のおかげでございます。心より感謝申し上げます。お客様と取り組みを深め、役員、社員共に走り続けてきた結果が当グループの今であると思うと感慨深い気持ちでございます。

メモリアルイヤーである今期ですが、新型コロナの世界的パンデミックにより、業務は混乱し働き方も多様化と大きな変革の時代に入りました。世界的には産業革命の後の約 200 年で、人類は様々な文明を築き発展を遂げてまいりましたが、直近の 100 年は大きな問題を含む 100 年だったと思います。航空、鉄道、自動車、ネット環境など産業の大変革を遂げ、文明が 100 年で大きな進歩を成し遂げたにも関わらず、アジアの民主化問題、宗教戦争などイデオロギーの違いや世界的な自然災害の発生、大地震など毎年のように大きな問題が発生しています。

そこに 2020 年、突如発生した新型コロナの出現で、世界も日本も混乱していることと思います。世界的パンデミック！　そんな時代だからこそ一人一人の考え方や行動が問われる時代となってきました。

ハルナグループは 25 年の歴史で、業界の常識ではなく新たなイノベーションを目指し、そこから信用、信頼していただける企業を目指し取り組んでまいりました。創業の時代もとても厳しい状況でしたが、その後の 25 年、お客様との取り組みを最優先し、最高の顧客満足を考え行動し続けてまいりました。

今期はコロナ禍の時代でも、今まで以上に当社に安心してビジネスを任せ、信用、信頼していただけるような企業経営を目指してまいります。最初は小さな一歩でしたが、25 年間培ってきた当社の遺伝子、創ってきたレガシーを未来創造のためにハルナグループで伝え育ててまいります。そして、顧客との競争ビジネスの強化、ハルナグループ DX 化プロジェクト、SDGs の取り組みを柱とし「チャレンジ！！」の一年とさせていただきます。仕事を通して、世界中の皆様の健康と飲料の楽しみを育てつつ、社員一人一人が自助努力を積み重ね、社会貢献できる企業として努力精進してまいります。

本年もよろしくお願いします。

HARUNA produce

営　業

環境の変化の中で価値あるものを届けつづけます

2020 年度は新型コロナウイルス対応を起点とした移動制限やソーシャルディスタンス、テレワークの普及など、いまだかつてない変化の中で当社を取り巻く環境も大きく変化しました。その中でも自社ブランド、顧客ブランド、それぞれの顧客層に対して積極的な提案活動を行い、さらに多様化する顧客ニーズにお応えしてまいりました。
今年度も今まで以上に顧客に向き合い、さらなるマーケティング力を磨き「もっと新しいもの、もっと美味しいもの、もっとドキドキするもの、もっと感動するもの」を創造し、すべての人に最高の付加価値を届け続ける活動を行ってまいります。

2021 年度の取り組み

①年間安定受注環境の再構築
② One to One マーケティングの掘り下げ
③環境配慮型商品の推進及び原資材コスト削減強化
④コーポレートブランドの展開強化
⑤新規領域での市場創造

We are team HARUNA

ルカフェご好評いただいております！

ルカフェ
五感で楽しむお茶

2020 年 4 月のリニューアル後、小売・EC 業態での売上が前年比 123％と好評！「五感で楽しむ」という新しいコンセプト、店頭で映えるデザイン、若い世代を意識した味わい、ノンカフェインや人気の台湾茶の追加などが支持され、全国のコンビニエンスストアでも採用されるなど、販路が広がっております。2021 年 4 月には新商品「台湾檸檬烏龍茶」も発売！

EC への取り組み強化

コロナ禍で伸びるネット販売に対応すべく、既存商品を活かした詰め合わせボックスやギフトセットを制作。より多くの方にハルナ商品を届けられるよう取り組んでおります。

ディストリビューション Unit

人・施設・情報の機動力を最大化

物流サービスの限界に挑戦

新型コロナウイルスの様々な影響など、日々の荷扱数量の変動や荷揃え業務の多様化等、お客様の必要とする物流要望の実現に Unit 全体で取り組んでまいります。

2021 年度事業方針

配送業務と倉庫運営の連携強化。
多様化するお客様要望に対し期待を超える対応実施。

事業戦略（主要項目）

1）物流企画 sec

①配送単価低減：繁忙期外の期間における製品配送の無駄や追加付帯費用の発生を極力抑え、お客様の要請に応えつつ運賃抑制を行います。

②自社トラックによる配送（横持ち）内製業務を効率化し、最終の製品出荷に至るコスト抑制に努めてまいります。

2）倉庫 sec

①夏期（繁忙期）までの販売増進を加味した製品在庫と冬期の絶対数量低下時の在庫バランス最適化を実施。自社倉庫保管率の向上と外部倉庫使用コスト低減に取り組みます。

②保管製品の汚破損防止目標強化（発生率目標：前期比 50%、ケース数：前期比 28%）引き続き物流品質の向上に努めてまいります。

3）業務効率化の推進

①物流 IT、IoT の推進。各業務のデジタル化を推進。伝票の電子化。受付自動化等。

②作業の省力化。パワードスーツ導入等による労務負担の軽減を実施してまいります。

様々な物流のご要望にお応えするべく、
実現に向け全力を尽くしてまいります。

HARUNA produce

製　造
Unit

自助努力による自己成長を総合力に昇華する

ハルナプラント、タニガワプラント、和歌山プラントと 3 つの生産拠点からなる生産体制を効率的に運営し、日本全国のお客様へ PET 飲料をお届けしています。

2020 年度はコロナ禍により、人々の生活習慣や意識に大きな変化が起きた年でした。新型コロナウイルスの感染拡大にともなう感染予防への対応を徹底し、生産活動を継続することができました。

また、このような状況でも新たな商品の導入に向け開発や設備対応を進め、新商品の生産を進めております。これからも、より多くのお客様に安心して商品を購入していただくために、より品質の高い商品を、より効率的に生産する取り組みを進め、皆様のご要望にお応えしてまいります。

2021 年度の取り組み

①自助努力による自己成長から組織力の強化に努め、3 つの生産拠点からなる総合力を活かし、多品種・少量生産の対応力を強化し生産性の向上に取り組みます。
②新たな液種、新たな容器の導入を推進し、付加価値のある新たな需要やコロナ禍により多様化する顧客ニーズに対応します。
③ DX（デジタルトランスフォーメーション）における生産の改善、改革に向けた取り組みとしてロボットや AI、IoT といった最新デジタル技術の導入検討を進め、ハイクオリティー・ローコストオペレーション体制の向上に挑戦します。

第 1 プラント

第 2 プラント

第 3 プラント

第 4、5 プラント

第 6 プラント

ソイミルク

HARUNA produce

品質保証
Unit

顧客評価に値する品質とは何かを問う

2020 年度の活動として、食品安全マネジメントシステムのグローバルスタンダードである FSSC22000 の認証をグループ全拠点にて運用することで、工場品質・製品品質の維持向上に継続して取り組みました。
また、これまでと違う取り組みとしましては、新型コロナウイルスの感染拡大にともなう感染予防への対応でした。消毒用アルコール設置箇所増設、共有備品などの日常消毒など、新たなルールづくりをするなど従業員や来場者、及び施設面等での衛生管理について、今までとは考え方を変えた対策や対応という大きな課題に取り組みながら生産活動を継続することができました。

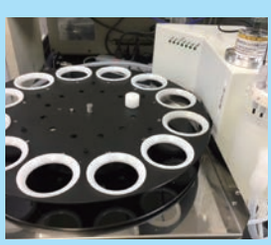
経営理念「顧客評価に値する品質とは何かを問い」、2021 年度も全員が経営理念に基づき行動し、品質マネジメントシステムである FSSC22000 を効果的に運用することで、工場品質と製品品質の強化に取り組み、これからも皆様からご満足、評価いただける製品をお届けしてまいります。

経営理念

・顧客志向を経営の核として
・顧客評価に値する品質とは何かを問い
・顧客思考を超える製造とは何かを考え
・顧客歓喜の果実を己の収穫とする

FSSC 22000 とは

食品安全マネジメントシステムの国際規格である ISO 22000 と、それを発展させた ISO/TS 22002-1（または ISO/TS 22002-4）を統合し、さらに FSSC 独自の追加要求事項を加えた国際食品安全イニシアチブ（GFSI）が制定したベンチマークの承認規格です。世界の大手食品流通様や大手食品製造企業様が取引先に認証取得を求めているグローバルスタンダードです。



和歌山プラント

タニガワプラント

ハルナプラント

HARUNA produce

商品開発

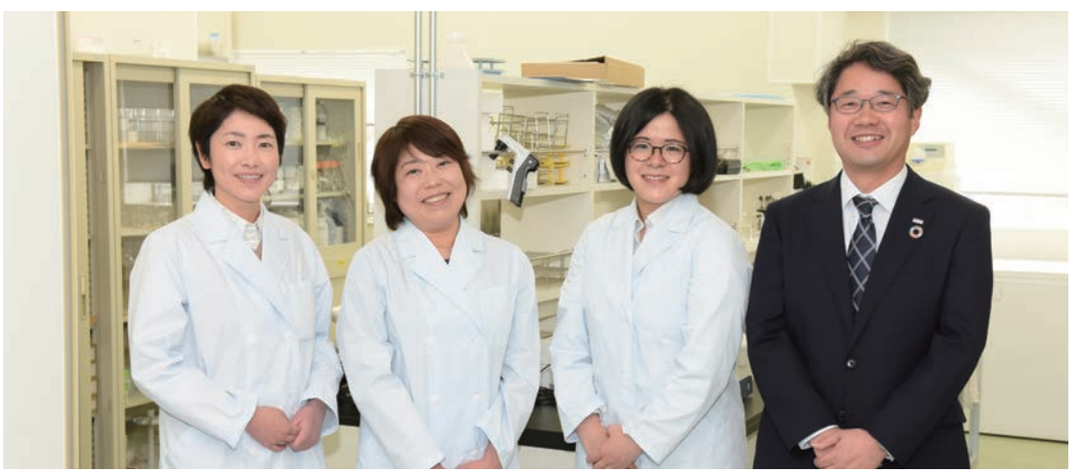
今できること、今やるべきことを

2020年、社会環境が大きく変化し、人々の「生活スタイル」や「意識」が変化していく中で、今私たちにできること、やるべきことを考え、「美味しさ」だけではない、日々の生活に少しの「楽しさ」「喜び」「感動」をお届けできる商品を創作しております。
個性あふれるメンバーによる
「ちょっと変わった」商品！！
「こんなのがあったらいいな」をかたちに！！
多くの皆様にお楽しみいただける商品をお届けできるよう日々開発に取り組んでおります。
2021年、環境変化によるトレンド・ニーズ変化の分析とこれまでの経験・ノウハウを融合させ「創造するココロを大切にするモノつくりのプロ」として、
「見たこと、食べたことのない商品」
「世の中にない商品」
をお届けできるよう取り組んでまいります。

HARUNA produce

ウェルネスサイエンス研究所

2020 年度は新型コロナの影響で、人々の生活習慣や意識に大きな変化が起きた年でした。研究所では、成分分析自動化装置の導入・データ解析業務の効率化を進め、対応力を強化しています。また、変化を見据えた新しい価値創造を目指し、食品由来の新規機能性成分や飲料製造過程で生じる茶殻のバイオマスや他原料としての利用に関する研究を進めてきました。2021 年度はこれらの研究成果を活かし、新たなものづくりを目指していきたいと思います。



研究所の事業

研究所では 3 つのテーマを掲げ、研究活動を行っています。

フードテック

安心・安全、そしておいしさを、科学的に追求し、新たな商品づくりを目指します。天然原料の組み合わせを研究し、長期間の保管・輸送を経てもおいしさを保ちながら安心してお客様に飲んでいただける製品の開発に携わってきました。さまざまな成分の組み合わせにより、従来持っている原料の機能をより引き出した製品づくりを進めていきます。

原料探索

ヘルスケアを主として、新たな原料を探索し、子供から大人まで多くの人が健康で豊かに生活できることを目指します。
世界には体に良いとされているお茶が多くあります。これらのお茶の成分が体に与える効果を調べ、日々の健康維持に役立てられるようにします。

環境資源

商品に関わるすべてのサイクルをハルナグループの活動として捉え、人と環境との調和を目指します。飲料製造過程で生じる抽出後の茶葉には、まだまだ多くの機能性成分が残されています。これらの茶葉を活かして、新しいリサイクルの形を目指します。

会社概要

Profile

Haruna

HARUNA

Haruna ブランドマネジメント

創　業	2008 年 4 月 1 日
所在地	〒 103-0027 東京都中央区日本橋 3-8-4 日本橋さくら通りビル 2 階 TEL：03-3517-5745　FAX：03-3517-5759
役　員	代表取締役社長　青木日出生 取締役【非常勤】　青木麻生 取締役【非常勤】　中澤幹彦 監査役【非常勤】　青木清志

Haruna Asia

HARUNA Asia（Thailand）Co.,Ltd.

創　業	2013 年 4 月 22 日
所在地	32/23, Sino-Thai Tower 2F., Sukhumvit 21 Rd. (Asoke), Klongtoey-Nua, Wattana, Bangkok, 10110 THAILAND TEL +(66) 2258-0937 FAX +(66) 2258-0939 E-Mail info@haruna.co.th
役　員	代表取締役社長　青木日出生 執行役員兼リードオフィサー　松田貴之

ヨーロッパでの活動

2019 年度から、ハルナグループの工場で製造された茶系飲料 “UMAICHA” ブランドにおいて、スペインを拠点に西欧での販売・マーケティングを中心に活動しております。現在は、オーガニック 3 品とオリジナル 2 品の計 5 商品で伸長しているオーガニックの棚と健康的なチェーンにターゲットを絞り活動を広げつつあります。
今後は、有力チェーンのプライベートブランドの開拓とハルナグループの製造力、開発力、ネットワークを活用したアジアからの飲料販売も計画してまいります。

タイでの活動

タイにおいては、昨年 3 月 26 日に非常事態宣言発令以降、今日まで非常事態宣言が解除されることなく、また、政治混乱による市民の政治集会が開かれるなど不安定な情勢が続いております。
こうした環境の中で、今まで海外を自由に行き来していましたが、できない環境へと移り変わりました。日本とタイにおいてはとても友好な関係であることから、HARUNA Asia が架け橋となり、少しでもタイの人々が日本を感じられる日本らしいドリンクを輸入販売してきました。また、日本の人々にタイの雰囲気を少しでも感じ取ってもらうべく、タイらしいトロピカルジュースを輸出したりと、各国の人々に対して少しでも海外の雰囲気を味わってもらおうと、この 1 年活動してきました。
今後においても、HARUNA Asia が架け橋となり、各国の色が強い商品を日本及び、タイを中心にアセアン地域に届けられるよう取り組んでいきます。

HBD Honey Yuzu
New フレーバー

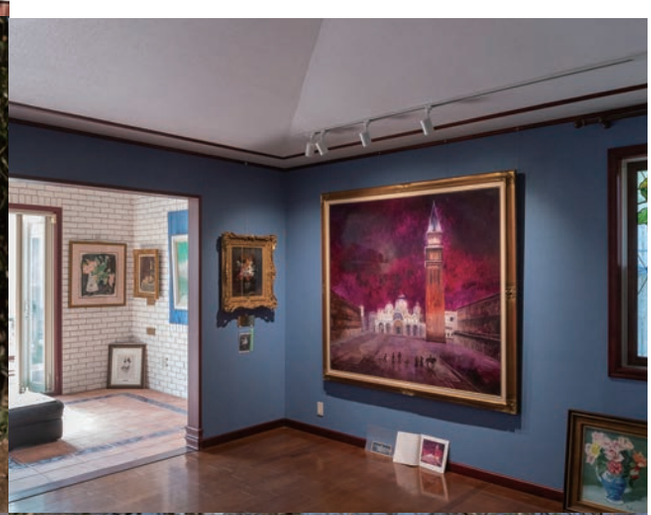
Vitamin Water

無添加スープ

Jelly Drink
（ラムネ味）

タイ トロピカルジュース

一般財団法人榛名美術 設立



ハルナグループでは芸術文化支援（メセナ活動）を行っております。芸術・文化を通じた社会創造として、創業者の青木清志が代表となり一般財団法人榛名美術を設立。2020 年 11 月には榛名美術記念公園「美術の館」「彫刻の杜」を設立し、活動領域を広げ、地域にも浸透し、豊かな社会を築いていくために文化芸術支援を行っています。

〈榛名美術記念公園〉「美術の館」「彫刻の杜」：	
所在地	群馬県高崎市下室田町 2700-1
電話番号	027-374-8084
ホームページ	http://haruna-art.or.jp

2020 年度 トピックス

創業 25 周年を迎えました

1996 年に創業したハルナグループは、2021 年 2 月 23 日に創業 25 周年を迎えました。これからも全社一丸となって困難な時期を乗り越えられるよう、ハルナグループ全役員・社員の安全と健康と幸せを祈念し Haruna Book を制作し贈答しました。

トータルリワード運用開始

社員一人一人の価値観やライフスタイルの多様化に対応するために、給与だけでなく、仕事そのものの面白さや働きやすい職場環境、組織文化、能力・キャリア開発、福利厚生、ワーク・ライフ・バランスなども組み合わせた、当グループ独自の魅力的なトータル・リワードを構築し 2021 年度よりスタートいたしました。

危機管理委員会に「新型コロナウイルス対策本部」を発足

専門機能における取り組みを強化するため、各ユニットに部会を設置し、対策本部会議を頻繁に開催し、感染症の影響、対策、課題を全社で共有しています。感染防止のための体制を構築し、様々な取り組みを進めています。

コーポレート SNS アカウントを開設

ステークホルダーの皆様との交流、ハルナグループの企業としての情報発信の機会としてコーポレート SNS（Instagram/Facebook）を 2020 年 10 月に開設しました。報告会の様子や社員インタビューなどを今後も発信していきます。

ハイブリッド型
事業報告会 開催

新型コロナウイルス感染症の影響で、ご参加いただくステークホルダーの皆様の安全安心を考慮し、2002 年から開催している事業報告会（四半期報告会）を初めてオンラインでも参加できるハイブリッド型で開催いたしました。

デジタルトランス
フォーメーションの促進

ビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、お客様や社会のニーズをもとに、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し確立することを目指し、DX と SDGs を融合させたハルナサステナビリティ・トランスフォーメーション（HSX）を促進しています。

社会貢献 SDGs への
取り組み強化

ハルナグループでは、より良い社会の実現を目指して、「社会福祉」「次世代育成」「環境保護」への貢献を軸に社会貢献活動に取り組んでいます。
毎年「国境なき医師団」への寄付や、次世代を担う子どもたちの支援として「米山記念奨学金」、環境保全助成の「ぐんま緑の県民基金」への寄付、大規模災害時には復興支援として寄付を行っています。また、拠点ごとに周辺地域の清掃活動や献血活動を 15 年以上にわたり継続し実施しております。

感謝状